

令和5年度 第3回学校協議会 会議録

1 日 時 令和6年3月22日(金) 18時30分

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員 (50音順 敬称略)

産業高等学校元PTA会長	池内 美智子
産業高等学校同窓会副会長	北野 好美
岸和田市中学校校長会会長・野村中学校校長	木實 広
日本継手株式会社・総務部長	信貴 政則 (協議会会長)

(2) 学校 (事務局)

校長	大西 敦子
全日制教頭	安井 孝 (司会)
定時制教頭	榎本 正広
全日制教務部長	齋藤 良房
事務長	橋本 純 (記録)

欠席者

産業高等学校PTA会長	中島 嗣行
-------------	-------

4 次第

1. 校長挨拶

先日の卒業式へのご臨席に感謝申し上げます。コロナ5類移行に伴い来賓や在校生の出席も再開でき、よい卒業式にできたと思っている。

入試においては、全日制は定員割れなく実施でき、定時制も20名を超える受験者を得た。来年度も学校を盛り上げていきたい。

2. 会長挨拶

卒業式、入試ともお疲れさまでした。入試では、公立高校の志願者が少ない中、定員割れを起こさずに実施できたことを嬉しく思う。

労働基準監督署によると、令和5年の大阪府の労働災害の死亡者数が2年連続で減少し、安全に対する各企業の意識が向上しているとのこと。半面、コロナが明けて人の動きが活発になり、女性や高齢者、外国人の怪我が増えているとのこと。先生方にも、学校内の怪我については十分注意されたい。

3. 「令和5年度学校教育自己診断」分析結果

●全日制

本日は「学校教育自己診断表」生徒用レポートを配布している。主な項目について説明する。

・「学校へ行くのが楽しい」「この学校には他の学校にはない特色がある」の項目については、全体で83%の生徒が「よくあてはまる」または「ややあてはまる」と回答しており、学校の生活を楽しんで

いる様子である。学校の特色を理解した上で勉強に取り組んでいることがうかがえる。

- ・「自分は学校の設備・施設などを大切に扱っている」や「成績などの内容についてプライバシーが守られている」の項目には、90%を超える肯定的な回答を生徒たちからもらっている。
- ・「学習の評価は、テストの得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」の項目についても80%から90%近い生徒たちが同意してくれている。しかし、その指導に納得しているかということ「学校生活について、学校の指導は理解できる」の項目にあるように、なかなかそうとも言えない。それでも昨年60%から今年66%に改善している。
- ・他に、数字が大きく改善したのは「生徒会活動は積極的に進められている」の項目。今年度、久しぶりに生徒会主催のレクリエーション大会を実施したのが、生徒達の印象に残ったようだ。
- ・一方、数字が下がったのは「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」という項目。コロナの間は行事が出来ず、ホームルームで進路や生き方を考える機会が多かったが、今年度は行事が復活し、ホームルームが行事やその準備に充てられた。進路や生き方を考える機会はホームルーム以外にも確保しているので、質問項目から「ホームルームで」の文言を外すと違う結果になるかもしれない。
- ・同様に「命や人権の大切さについて学ぶ機会が多い」も下がった。コロナ禍のときには、入学時にコロナについての差別や命の大切さについて学年全員を集めて話をする機会を持っていたが、コロナ5類移行後は、そういった話の機会は確かに減った。これからの推移を注意深く見ていきたい。
- ・学校生活には満足してくれている生徒が多い。3年生に訊いた「卒業が近づいた今、産業高校に入学してよかったと思う」が86%ということで非常に嬉しく思っている。結果については今年度マイナスになった項目はその原因を分析し、その数字を上げていくために尽力していきたい。
- ・この結果は、在校生に対しては教室で掲示する。また、本校のホームページにも掲載し保護者の方々にも公開する。

●定時制

- ・定時制では、学校教育自己診断での生徒からの肯定的な意見6割以上を目標としている。昨年度は非常に良い結果が得られた。今年は昨年度との比較で下がっている項目があるが、6割以上という目標は達成できた。
- ・気になる項目としては「学力は身に付いてきている」が91.4%から76.2%に減少。詳しく見ると1年生の肯定的な意見が低い。2、3年生が1学年10数名なのに対して今年の1年生は23名で、2、3年生に比べて生徒一人一人に担任の手が回らなかった部分があったかと思われる。学力を実感してもらえぬ工夫が必要と分析している。
- ・肯定的回答が増えた項目では「この学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」が10.7%増。今年度は平和学習について取り組み、学校独自の教材で戦争の資料を見せながら考えさせたのが印象的だったと分析している。
- ・生徒、保護者、教職員で似た項目を比較し、3者の意識の違いを見た。生徒に訊いた「学校へ行くのが楽しい」、教職員に訊いた「教育活動全般について、生徒や保護者のニーズや願いによく応えている」は目標を達成しているが、保護者に訊いた「子どもは、自分のクラスが楽しいと言っている」が

少し低い。意識に違いがあると思える。授業についても、生徒の「授業は分かりやすく楽しい」、教職員の「授業の工夫・改善を行っている」は高いが、保護者の「各科目の授業は分かりやすいようだ」は少し低い。生徒と保護者での意見の違いを分析する必要がある。

- ・ 定時制の課題でもあるが、「学校行事や生徒会活動に積極的に参加している」という部分が少し低く60%を割っている。ただ、保護者・生徒・教職員とも、行事の工夫は評価していただいているようである。

● 質疑応答

(委員) 全日制の「卒業が近づいた今、産業高校に入学してよかった」の項目で、デザイン科が「△」というのはなぜか。卒業制作が忙しいとあるが、デザイン科からの進学はどうなっているか。卒業制作も大事だが、進路もあるのかなと思う。

(事務局) デザイン科は1クラスしかない。その少ない人数の中での満足度が少なかったのかと思う。このままではダメなので、次の3年生のデザイン科担任にも情報共有し、何か具体的な思いがあったのかどうか、情報収集しながら、きめ細やかな指導をしていきたい。

(委員) ウチの娘もデザイン科だったが、卒業制作の時期は夜中までミシンで縫っていた。楽しそうではあったが。

(委員) 男子生徒が少なくて気の毒。男子が1人の学年もあった。

(事務局) かつては1人やゼロの年もあったが、ここ数年は3～4人。デザイン科は圧倒的に女子が多いのは変わらないが、近年は1人だけの年はない。生徒たちは楽しそうに見えたとし、卒業制作展も一生懸命に頑張っていた。この「△」の原因は今後分析する必要がある。

(委員) 生活指導も大変だと思う。中には、それで退学する子もいるのでは？

(事務局) まず本校のカリキュラムに合わなかったり、全日制高校に通うことそのものが、ちょっとしんどい、友人関係の構築が難しいと感じる生徒が多くなってきている様に思う。通信制に転学する生徒が多くなってきており、転退学に対するハードルが非常に低くなったと感じる。しかし、社会に出て困らない様に、一定のラインは守らせる必要がある。そのまま社会に出すのは無責任と感じる部分も多く教員は生徒の将来を考え、言いたくないことも言わざるを得ず指導にあたっている。

(委員) 中学高校に限らず社会人でもそんな人はいる。人との付き合いがいやで、退職も自分で言わずに代行を使って退職願を送ってくる。指導するほうも気を遣う。定時制は、生徒が増えると難しいところもあるのか。

(事務局) 今年度の1年生は23名。ほぼ最後まで転退学無く楽しそうにやっていると聞いていたが、少し物足りないと感じる部分もあったのかと思う。「気軽に相談できる先生がいる」という項目が54.8%と去年からかなり下がった。相談しようと思っても担任の先生が他の生徒の相手をしていることもあったと考えられる。1年生が全体の約半分を占めており、1年生のアンケート結果が全体の数字にも影響している。

定時制は、かつては最後まで続かない生徒が多かったが、今は途中でドロップアウトする生徒はほぼいなくなった。生徒数が減ったのはさみしいが、教員の指導がいきわたるようにな

ったと思う。

(委員) 通信制高校へ行く生徒も多いが、定時制で社会性を教えてもらって身につけさせる3年間であれば社会の中で生きる力がつくと思う。

19時15分終了